平成 31 年 1 月11日

各　位

観光庁国際関係参事官室

平成30年度「持続可能な観光」国際シンポジウム開催のご案内

拝啓　日々ますますご清祥のことと存じます。

観光庁では、昨年国連が定めた 2017 年「開発のための持続可能な観光の国際年（IYSTD）」を踏まえ、世界観光機関（UNWTO）と連携し、三重・岡山で「持続可能な観光国際年」記念国際シンポジウムを開催したのに引き続き、本年度も以下のとおり、奈良県において「持続可能な観光」国際シンポジウムを開催することといたしました。

本シンポジウムでは、「持続可能な開発目標（SDGs）」達成のため観光が果たす役割やその重要性についての理解を促進するため、持続可能な観光に関する国内外の先進事例を共有・発信することとしております。

つきましては、皆様方にも是非本シンポジウムにご参加いただきたくご案内いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 名　称　　平成30年度「持続可能な観光」国際シンポジウム
2. 主　催　　観光庁及び奈良県
3. 後　援　　世界観光機関（UNWTO）
4. 日　時　　1 日目：平成 31 年 2 月 4 日（月）　10:00 ～ 12:00
　　2 日目：平成 31 年 2 月 5 日（火）　10:00 ～ 17:00
5. 会　場　　奈良春日野国際フォーラム「甍」（奈良公園内）
6. プログラム　講演Ⅰ「持続可能な観光国際年」後の「持続可能な観光」への取組とSDGs達成に向けた展望
　　講演Ⅱ「持続可能な観光」に関する奈良における取組事例
　　講演ⅢSDGs達成と「持続可能な観光」について
　　～ JICA、地域、国際社会から ～
　　基調講演　産業観光を用いた滞在型観光と地域経済の持続的な発展
　　パネルディスカッションⅠ
　　地域に根ざした産業を観光資源とする取組について
　　～ 事業者の立場から ～
　　特別セッション　持続可能な観光の実現に向けた取組 ―海外、若者から―
　　パネルディスカッションⅡ
　　産業観光を観光資源とするための地域づくり、観光地づくり
　　※各セッション概要及びスピーカー、パネリスト等については、別添プログラム案をご参照ください。

7. お申込み　別紙お申込書を**1月23日(水)までに**メールにてお申し込みください。
先着順ですので、定員に達した場合には締切とさせていただきますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

○ 申込み先、連絡先:

観光庁 国際関係参事官室 （担当: 中村、鈴木）
アドレス：nakamura-m2cq@mlit.go.jp
suzuki-t5349@mlit.go.jp
電話番号：03-5253-8922（直通）

別紙

平成30年度「持続可能な観光」国際シンポジウム

参加申込書

1. 日　程　1日目:2月4日(月)　10:00～12:00
　　2日目:2月5日(火)　10:00～17:00

2. 場　所　奈良春日野国際フォーラム「甍」(奈良公園内)

お名前	
所属先	
お役職	
ご連絡先 お電話番号	
メールアドレス	
参加希望人数	名
参加希望日	□2月4日(月)　□2月5日(火)　□両日とも
備考	

※ご記入いただきました個人情報は適切に取り扱うとともに本シンポジウムの運営に必要な範囲内で利用し、目的外利用及び外部提供を行いません。

上記申込用紙に記入(入力)のうえ、下記までメールにてお申し込みください。

送付先アドレス　：　nakamura-m2cq@mlit.go.jp　suzuki-t5349@mlit.go.jp

担当　観光庁　国際関係参事官室　(中村、鈴木)

申込締切:　**1月23日(水)**

シンポジウム概要

「持続可能な観光」国際シンポジウム　コンセプト（案）

【基本コンセプト】

国連は、持続可能な観光が開発に対してどのような付加価値を有するのか、どのような貢献を果たすことができるのかを広く知らしめることを目的として、2017 年を「開発のための持続可能な観光国際年」と定め、世界観光機関（ＵＮＷＴＯ）は関連行事等の実施を通じて持続可能な観光への取組の重要性について周知を図った。この際に醸成された機運を活用し、各国が 2018 年以降も更なる促進を図ることが求められている。

こうした情勢に鑑み、ＵＮＷＴＯ執行理事国であり「観光先進国」を目指す我が国も、国連の定めた持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の達成に引き続き貢献することが必要である。各国と観光政策にかかる議論を主導・共有する観点から、引き続きＵＮＷＴＯと協働して「持続可能な観光」をテーマに国際会議を開催することで、国内外の関係者と議論・共有し、ベストプラクティスを発信するとともに、開催都市における国際相互交流の推進を行う。

【テーマ】：「地域に根ざした産業を観光素材として活用した未来の観光を考える」

＜テーマの背景＞

近年、世界の旅行形態が団体旅行から個人旅行へ変化し、旅行の内容について、地域独自の文化・慣習を実際に体験する体験型観光へのニーズが高まり、旅行者の持続可能な観光に対する意識の変化が起こっている。また、地域に根ざした産業は地域の人々の生活に溶け込み、文化を作り上げる一方で、近年では後継者不足等の問題に直面している。

こうした状況において、持続可能な観光地づくりのためには、観光を通じて地域独自の産業といった、従来、観光には必ずしも活用されてこなかったコンテンツを観光資源として活用することで新しい価値を見出すこと、また、事業者、ＤＭＯなど様々な関係者を巻き込み、地域の魅力を作り、その地域の産業を持続的なものとすることが重要な課題となっている。

＜コンセプト＞

奈良県では、今まで奈良墨や林業といった地域に根ざした産業を観光資源として十分に生かしきれていなかったが、現在では、様々な関係者と協力しつつ、こうした観光資源を生かした取組が行われ、持続的な地域経済の発展の実現を目指している。

本シンポジウムでは、奈良県が目指す方向性を実現している地域モデルについて参加各国、並びに国内各地域の間で共有を図り、開催地である奈良県の目標の実現につなげるとともに、同様の課題を持つ国内外の地域に向けてベストプラクティスを発信する。

１．会議概要

○日　程：　１日目：２月４日（月）10：00～12：00
　　２日目：２月５日（火）10：00～17：00

○会　場：　奈良春日野国際フォーラム「甍」（奈良公園内）

２．プログラム

２月４日（月）

10:00-10:20　開会式

10:20-10:50　講演Ⅰ　サンドラ カルバオ
UNWTO Tourism Market Intelligence and Competitiveness 部部長
「持続可能な観光国際年」後の「持続可能な観光」への取組と *SDGs* 達成に向けた展望

10:50-11:20　講演Ⅱ　伊藤　忠通　奈良県立大学学長
「持続可能な観光」に関する奈良における取組事例

11:20-11:50　講演Ⅲ　北岡　伸一　JICA 理事長
SDGs 達成と「持続可能な観光」について　～ *JICA*、地域、国際社会から ～

２月５日（火）

10:00-10:30　基調講演　久保　成人　日本観光振興協会理事長
産業観光を用いた滞在型観光と地域経済の持続的な発展

10:40-12:00　パネルディスカッションⅠ
地域に根ざした産業を観光資源とする取組について　～ 事業者の立場から ～
・産業を新たな観光資源としている事例について着目し、主に観光を産業として活かしている事業者の取組を紹介しつつ、事例を共有する。
【スピーカー】
- 吉田　佳代（梅乃宿酒造(株)代表取締役）
- 地元より産業観光関係者
- 国定　勇人　三条市市長
- Natthanich Sittikarn　Product Manager of Tribe XP（タイ国）

【モデレーター】
吉兼　秀夫　京都外国語大学グローバル観光学科教授

13:15-14:30　特別セッション 「持続可能な観光」の実現に向けた取組　―海外、若者から―
・中央アジア５ヵ国の観光政策担当者が自国の魅力、ＰＲ、招請事業で得た知見の発表を行い、学生側が政策担当者とのディスカッションを通じて、「責任ある旅行者」になるための意見を発表する。
【参加者】
中央アジア５ヵ国の観光政策担当者、
奈良県立大学生、UNWTO 賛助会員の大学生
【モデレーター】
加藤　久美　和歌山大学国際観光学研究センター長　観光学部教授

14:30-14:50　コーヒーブレイク

14:50-16:40　パネルディスカッションⅡ
産業観光を観光資源とするための地域づくり、観光地づくり
・産業を新たな観光資源としている事例について着目し、主に観光を産業として活かして

いる事業者の取組を紹介しつつ、事例を共有する。

【スピーカー】

- 中西　康宏　奈良県ビジターズビューロー専務理事
- 坪井　泰博　JTB 取締役（訪日インバウンド担当）
- 木本　昭宏　北九州産業観光センター会長
- Jou Yi-Cheng(周　奕成)　SEDAI GROUP CEO

【コメンテーター】

ルース・マリー・ジャーマン　(株)ジャーマン・インターナショナル CEO

【モデレーター】

田尾　大介　(株)ツーリズムデザイナーズ代表取締役

16:40-17:00　全体まとめ

（敬称略）